

コロナ騒動はまだ続いているが、5月20日以降はまたたびもコロナ対応をすることでツアーを再開した。バスは2座席1人であったり、マスクが配られたりした。“日帰りにしては高いわね”と言っていたバーサマがいたが12,500円は少し高い。靴マーク4つであるので今の俺にはきついなあと考えたが、この編笠山には2009年6月にも登っている。あの時はきついなんて全く感じなかったので参加を決めたのである。しかし11年の歳月は甘くは無かった。バーサマ方に付いて行けない。まあ何とかごまかしたつもりではあるが、同行者から見れば“のろいじいさん”と思ったことであろう。参加者の中では最高齢者であったみたいだ。メンバーは女8人、ジジイ3人。ババアについては怒られそうなのが3人くらいいた。編笠山は遠くから見ると



名前の通りに平安朝くらいの女性の帽子のような形をした特徴のある山であるが、登ってみると頂上に近づくにつれて斜度が増してくる。登りは3時間ちょっとの行程であるが最後の方に厳しさが待っているわけである。ここで息が荒れたのは仕方のないところか。俺の後を歩くのはババサマー一人だけ、あとはみんな先に行って待っていた。我々が頂上に着くとリーダーが、“皆さん寒いので先に降りていきましょう”と言って降りてしまった。ここから青年の家までの降りも大きな花崗岩の上を綱渡りのような格好で歩いたりして面倒であった。2日経った今でも体のあちこちが痛い。特に肩のあたりの筋肉が痛いのはストックに頼り切って登ったことの証である。昔は“杖を使ってまで山登りなんてやるな”と言っていたものであるが。

この日のツアーリーダーは楠元さんと鈴木さん。両方とも初めてである。鈴木さんは感じからはまたたびの社員みたいだ。昨年までいた角田さんの代わりといったところか。51歳と言っていた。楠元さんは55歳と言っていたが、トレランではかなりの経験を積んでいる人らしい。ツール・ド・モンブ



